The world times　姉妹校来校特集号

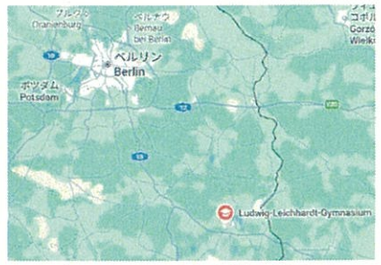
2-4　四方田将大　2-5　小林奏真

夏休みが終わり大高テストも終わって、いよいよ文化祭です！文化祭を楽しみにしている人も多いのではないでしょうか。

しかし、文化祭を楽しみにしているのは今の、そして未来の大高生だけではありません。今年の文化祭は、ドイツの姉妹校の留学生の皆さんが来校してくださいます！そこで今回の The world times では、文化祭特別号としてドイツの姉妹校「Ludwig-Leichhardt-Gymnasium 」について紹介します。

○ドイツの姉妹校の場所

大宮高校は今から 30 年前、創立 70 周年を機に Ludwig-Leichhardt-Gymnasium(ルドヴィヒ・ライヒハート・第 4 ギムナジウム)と姉妹提携を結びました。姉妹校はコトブス市にあり、ドイツの首都ベルリンの右下の、ポーランドとの国境近くに位置しています。ベルリンから姉妹校までは車で 1 時間ほどかかるそうです。またコトブス市の中心駅から歩いて 20 分程度のところにあり、その駅から一本でベルリン中心部に行くことができるため、大宮高校同様交通の便も良いです。



○姉妹校について

Ludwig-Leichhardt-Gymnasium は 1975 年に創立された学校で、13 歳～19 歳（中 1～高 3）の生徒 621 名が通っています。ギムナジウムというのは日本においての中高一貫教育のようなもので、様々な年齢の生徒が在籍しています。一学年の人数は 100 人前後と大宮高校に比べてかなり少ないです。英語、数学、理科、社会、体育、芸術などを教えるほかに、フランス語、ラテン語、さらには日本語のどれかから選択して授業を受けることができるのが大きな特徴です。また、画像の左側を見てもらうとわかるように、建物の外壁には日本語で「ライヒハート高校」と書かれていて、日本との関わりの深さがわかります。

○インタビュー

今回は、昨年ドイツに 2 週間短期留学した大宮高校の M さんにインタビューしました。

Q1　ドイツの生徒たちはどんなことに一生懸命に取り組んでいると感じましたか？

A1　地域の活動です。自分は現地の地域の人のフットボールとバレーボールの試合を観戦しました。同じ地区の学生や大人たちが年齢関係なく団結して試合を楽しむ姿と、生徒たちの全力の応援がとても印象的でした。

Q2　姉妹校の周りの風土や気候、留学中に食べた食事で印象に残ったことは何ですか？

A2　姉妹校のあるコトブス市は自然豊かで鶏や馬、牛、リスなどがいました。滞在していた 9 月頃は、日本より少し涼しくとても過ごしやすかったです。一番好きだった料理は駅で食べたカリーヴルストです。ドイツの国民的料理で本格的なソーセージが楽しめます。また、ドイツの米はインディカ米で、日本の米と味や食感が違っていたのが特徴的でした。

Q3　これから日本に来るドイツの学生たちとコミュニケーションをとるときに大切だと感じたことは何ですか？

A3　相手も英語は母国語ではないので、正確な英語を話すことよりジェスチャーなどで分かりやすく伝えることが大切だと思いました。

ドイツからの留学生は、2 日間文化祭に参加した後、1・2 年生の英コミュの授業で交流をしたり、部活動体験に来たりします。この機会に積極的に同年代の外国人と話して英語を“実際に使って”みましょう！

参考文献

https://llgym-de.translate.goog/de/schulprofil/die-schule-im-ueberblick.html?_x_tr_sl=de&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja
https://ohmiya-h.spec.ed.jp/%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E4%BA%A4%E6%B5%81--LLG-